

3 植物採取活動

3-1 樹木

3-1-3 燃料としての樹木の利用

薪拾い

木も薪も、ニ ni という。徹別では、山も川も近かった。タラ tar（荷縄）を何本も持って山にはいる。「薪取りに行く」ことをニシケ キ ワ エク nisike ki wa ek という。山で倒れている木、河原で流木を集めた。男も女も薪を山から背負ったり担いだりして来た。立木はめったに倒さない。倒れている木をノコ（アイヌ語は不明）で切って、かなり長めに切る。太いものは割って、タラ tar（荷縄）で担いでくる。家に持ってきた木はさらに切って短くする。切った薪はアサンドに入れておく。

[屈斜路 日川キヨ氏]

3-1-4 樹皮の利用

オヒョウ

オヒョウ（アイヌ名不明）の皮などの木の皮は、木の幹から剥いで糸にして保存しておく。糸にして、東の明るい方の壁に掛けておく。乾いたら、サラリプ sararip（編み袋）に入れておく。

[屈斜路 日川キヨ氏]

オヒョウとシナの木の皮が剥ぎやすい。

オヒョウの樹皮は、丈夫なので、タラ tar（荷縄）、アトウシ atusi（厚司）にする。オヒョウの皮は、シナの皮よりも丈夫だ。シナの皮は弱い。

[屈斜路 日川キヨ氏]

オヒョウの皮の紐を編んで足袋みたいな形の靴を作った。（釧路編 8-4-6 参照）

[屈斜路 日川キヨ氏]

オヒョウの木の皮の糸をサケ皮の靴を縫い合わせるときに使う。（釧路編 8-4-6 参照）

[屈斜路 日川キヨ氏]

靴の滑り止めとして、オヒョウの樹皮製の紐を2本、前と後ろに靴底から靴の甲に巻く。
(釧路編8-4-6参照)

[屈斜路 日川キヨ氏]

ムツクリの紐はオヒョウの樹皮をよったものだ。今は漁網を使う。(釧路編8-8参照)

[屈斜路 日川キヨ氏]

ゴザを織る茎をハンノキの皮で煎じると赤くなる。胡桃(くるみ)のしぶ皮や木の皮を煎じたものにつけると黒くなる。

[屈斜路 日川キヨ氏]

3-1-5 道具・器物としての樹木の利用

オヒョウの樹皮の糸をサケの皮を靴に縫い合わせる時(釧路編8-4-6参照)に、サビタ(ノリウツギ、アイヌ語名は忘れた)の木の針を使う。サビタの木は、骨みたいに硬いからだ。

[屈斜路 日川キヨ氏]

現在のムツクリは、根曲がり竹で作るが、昔は、サビタの木でムツクリを作った。自分の今持っているサビタのムツクリは夫の善次郎さんが作ったものだ。(釧路編8-8参照)

[屈斜路 日川キヨ氏]

3-2 家やゴザなどの材料となる植物

3-2-2 ゴザの材料となる植物

敷物

敷物のゴザの材料にするシキナ sikina (ガマ)を採りにはハポ hapo (母)やアチャ aca (父)が行った。

[屈斜路 日川キヨ氏]

敷物をキナ kina という。ガマの茎は幅が広く、それを細く裂いて作った敷物をオプネ キナ öpne kina という。これは神様用の敷物だ。同じガマでも種類が違う。普通のキナ kinaは、細く裂かないで茎を丸ごと使う。

死んだ時に使うキナとも違う。死んだ時に敷いたり、枕に使うガマがある。神様の敷物にするガマは種類が違う、死んだ時の敷物には使えない。

機織木で織り始めの端が下(しも)になり、織り終わりの端が上(かみ)である。

[屈斜路 日川キヨ氏]

色染め

キナに模様を付ける時に使う糸を黄色くするときにはシケレベの皮を使う。ハンノキの皮を煎じると赤くなる。胡桃（くるみ）のしぶ皮や木の皮を煎じたものにつけると黒くなる。色はこの3色しかない。（釧路編3-1-4、3-3-6参照）

[屈斜路 日川キヨ氏]

3-2-3 繊維となる植物

イラクサ

徹別で、秋にアイ ay（アウ awとも言う）というカイグサを採って、エカ éka（よる）をして糸にして玉にしておく。カイグサは丈夫なのでよつて（エカエカ éka éka）糸にする。その糸を縦糸や横糸にして機織木でチョツキに織っていた。

オンネチセ onne cise のフチ huci がチョツキ（エカエカイミ ekaekaymi 「よつた糸で作った袖無し」）や脚半（ホシ hos）を作った。（釧路編8-4-7、8-5-2参照）

[屈斜路 日川キヨ氏]

ブドウヅル

ブドウの皮でサラリフ sararip（編み袋、小出し）を作る。（屈斜路8-6-1参照）

[屈斜路 日川キヨ氏]

3-3 食用植物

3-3-2 ウバユリの加工

ウバユリ（「ウバイロ」）の根は、トゥレフ turep という。搗いてうるかし、タクタク taktak（固まり）にして、それを芯が残っているのでさらに鉋（ナタ）で細かく叩き切って（「タッケ tawke して」）から、中心部のあいた円盤状にして棒にとおして下げた。1本の棒に5、6個下げた。

[屈斜路 日川キヨ氏]

3-3-3 その他の食用植物

プクサ

プクサ pukusa（ギョウジャニンニク）は、刻んでキナ kina（ごぎ）の上に干す場合と、長いまま（30cm）のを樹皮でなつた紐で編んで吊り下げて干す場合とがあつた。刻んだものは、家の東側のセツ set（クマ檻）の近くにゴザを敷いて干した。長いものはつゆに入れ、刻んだものはご飯に入れて炊いた。

[屈斜路 日川キヨ氏]

3-3-6 食用以外の利用

キナ kina（敷物のゴザ）に模様を付ける時に使う糸を黄色くするときにはシケレベの皮を使う。

[屈斜路 日川キヨ氏]

3-4 薬用・魔除用の植物

3-4-1 薬用植物

シケレベ sikerpe（シコロの実）

採取

シケレベは、3年続けて実をつけるが、その後、3年は実をつけない。3年休んでから、また3年続けて実をつける。だから、今年実がなったから、あと2年はだいじょうぶ、と思う。その後はならないので、実がなっているうちに、休みの3年間の分も含めてシケレベをたくさん採っておく。

[屈斜路 日川キヨ氏]

昔も今も秋（9月～10月）に木に登ってシケレベを採る。木を倒したりはしない。10月には、枝が折れて落ちるので、実のついたその枝を拾う。

20年前から、屈斜路湖畔に住んでいるが、近くにシケレベの木（ニガキ）があつたが、今はもうない。

[屈斜路 日川キヨ氏]

保存法

シケレベの実を現在も使っている（注：今年の10月に他の人に採ってもらったものを、ナイロン製編み袋に入れて東側の窓の近くに干してある。）。

[屈斜路 日川キヨ氏]

薬用

シケレベの木の皮を現在も使用している。乾かしていれば、何年でももつ。煎じて、薬にする。

シケレベの実を薪ストーブの上でヤカンで煮て、真っ黒な色が出るほど煮詰めて煎じて飲む。風邪や胃の薬になる。

[屈斜路 日川キヨ氏]

プクサ pukusa（ギョージャニンニク）

冬になって風邪をひいたらプクサを薬にする。

[屈斜路 日川キヨ氏]